

アベマキ学校机プロジェクト

岐阜県美濃加茂市の里山林に多く自生するアベマキを
地元の小学校の学校机の天板に活用します。

「子どもたちが毎日触れるものを地元の山の木で地域の人を作る」



山之上
小学校

資料作成：岐阜県立森林文化アカデミー 和田 賢治

適材適所



アベマキは硬い⇒天板に最適

狂いが激しく材として価値がないといわれてきたアベマキ。
乾燥の研究・実験を実施し、
狂いやすい特性を克服しました。
とてもきれいなアベマキの色は
落ち着きをもたらし、
1枚1枚違う模様は個性を育みます。

*取り外した合板は棚板としての利用を検討しています。
*1kgほど重くなりましたが、子どもでも持てる重さです。
(増えた重さは、私たちの思いです)

従来のスチール製脚部は継続利用

使えるものは使います。
無駄に新しいものは作りません。

①伐採
(見学:5年生)

小学校の環境教育と連携



②製材・乾燥・製造
(天板製造見学・体験:6年生)



循環

毎年行うことで、持続的な里山整備と
地元の里山での思いをつなぐ環境教育を実現

⑤天板とともに卒業
(天板は傷や落書きをそのままに
卒業証書入れ、ペンなどに加工)



③天板は翌年入学する
新1年生へ



④自分の机として6年間使用



美濃加茂市
Minokamo City

地域内連携

すべてが地域内で完結する
コンパクトなプロジェクト

小学校からアベマキの里山は1km。
製材・加工場までは10km。



山之上小学校

岐阜県立
森林文化アカデミー



東濃檜・木曽檜専門 住宅資材メーカー
JAS認定工場 岐阜県東濃檜品質管理センター認定工場
株式会社 丸七ヒダ川ウッド



可茂地域林業シンボルマーク

可茂森林組合

地域の恵みをより多くの子どもたちへ

他小学校への展開

資源量調査、成長分析、製造歩留りをもとに、持続可能な伐採量を算出したうえで、ほかの小学校への展開を検討していきます。

(各調査、分析は森林文化アカデミーにて現在実施中です)

小学校へあがる前からアベマキの里山に親しむ

かつては竹の放置林だったところを整備したらアベマキ林が現れました。

この気持ちの良い里山にて、森のようちえん活動を実施しています。

また、アベマキを使った地元保育園用の里山マグネット等の開発も進めています。